

7. 1963年度母船式規制区域内における水温(表面水温)の特徴

吉光虎之助(大洋漁業部北洋部)

(1) 表面水温の特徴

本年度5月下旬から6月15日ごろまでのサケ・マス漁場における水温傾向は、例年と比較して約1.0~0.5°C高く感じられた。

とくに5月下旬の操業頭初4.5~5.0°Cの水温帯は1962年の同時期と比較してはるかに西方に片寄っていた(Fig.1. Fig2.参照)。

この状況を具体的に説明すると、

(a) 5月下旬

50°N~52°Nの間、4.5°Cの水温帯は50°N. 165°E付近と52°N. 167°E付近とを結ぶ海域までのびている。5°Cの水温帯は4.5°Cの水帯につづいてそのすぐ東側に分布している。

48°-30'N以南の海域では、4.5°Cの水温帯は顕著な発達が見られ、162°E付近まで分布しており、南方海域からの張り出しが強かった。

ただし、49°N~50°Nの海域では、西から東方にむかって冷水帯が165°Eまでのびている。

(b) 6月

5月下旬の大時化に影響され、漁場全域は水温の降下がみうけられた。しかし天候の回復と共に、海況も平常にもどり、6月中旬以降は例年なみの水温傾向を示した。すなわち、6月中旬 漁場全体は5.0~6.0°Cで覆われ、下旬になりやや上昇し、5.5°C~6.0°Cになった。

(c) 7月

50°N以南の海域では、7.0°C~7.5°Cの水温帯が漁場の主体分布

を示し、北方海域では、 50°N 以北、 165°E 以西の海域では、 6.0°C ～ 7.0°C の分布がみられた。

調整海域は 7.0°C ～ 9.0°C の水温で覆われ、カラギンスキー海域よりオリュートル・ナワリン海域の間は、東方にすすむにつれて、 7.0°C ～ 5.5°C まで次第に水温低下を示した。

7月16日以降 46°N ～ 48°N 、 170°E を中心とした海域に 9.0°C ～ 10.0°C の水温分布がみられた。

以上が本年度の漁場における水温分布状況である。

(2) 漁場との関係

水温分布状態と漁場形成との関係についての特徴を説明する。

- (a) 5月下旬、 50°N ～ 52°N の間には、 4.5°C の水温帯が分布し、それに接近して 5.0°C の分布が見受けられた。

5月下旬から6月上旬まで、この海域にベニザケを主体としたベニザケ・シロザケの混合漁場が形成された。とくに、 4.5°C の水帯にベニザケが多く分布していたことは、ベニザケの適水温知覚をあらわしていると思う。

- (b) 漁期はじめ、 49°N ～ 50°N 、 165°E 以西の海域において、西から東方海域にくいこむ顕著な冷水帯が発見された。この冷水帯には好漁場は形成されなかった。

- (c) 6月は 5.5°C ～ 6.5°C の水温帯が分布したが、とくに 6.0°C の水帯に好漁場が形成された。

- (d) 調整海域からオリュートル・ナワリン海域に互る漁場において、東方になるに従って水温は 7.0°C から 5.5°C と低下している。

しかも東方海域程シロザケの分布が多かった。

- (e) 7月は 50°N 以南・ 165°E 以西の海域にカラフトマスの分布がみられたが、その水帯は $7.0\sim 7.5^{\circ}\text{C}$ であった。また、 51°N 以北、 165°E 以西の海域にベニザケの分布がみられたが、その水帯は $6.0\sim 7.0^{\circ}\text{C}$ であった。
- (f) 7月中旬、 50°N 以南、 170°E 以東の海域にギンザケの分布がとくに多くみられたが、その水帯は $9.0\sim 10.0^{\circ}\text{C}$ の間である。

(3) 考 察

本年度サケ・マス漁場においては、5月中旬すでに 4.0°C の水温分布がみられた。

5月下旬 4.5°C の水帯は、 50°N 以北の海域では 165°E 付近まで、また $48^{\circ}-30'\text{N}$ 以南の海域では 162°E 付近まで分布し南方海域からの張り出しが顕著であった。

このことは5月下旬から6月中旬にかけて本年度の著しい海況特徴である。漁場形成の時期とその海域は、各地方別魚群が海況その他の環境要因に影響されて漁場を形成するものと思われる。

本年度漁期はじめの漁場は、それらの環境要因によりやや北寄りに漁場が形成され、しかも永続性があったことである。

(1 9 6 3 . 1 2 . 2 3)

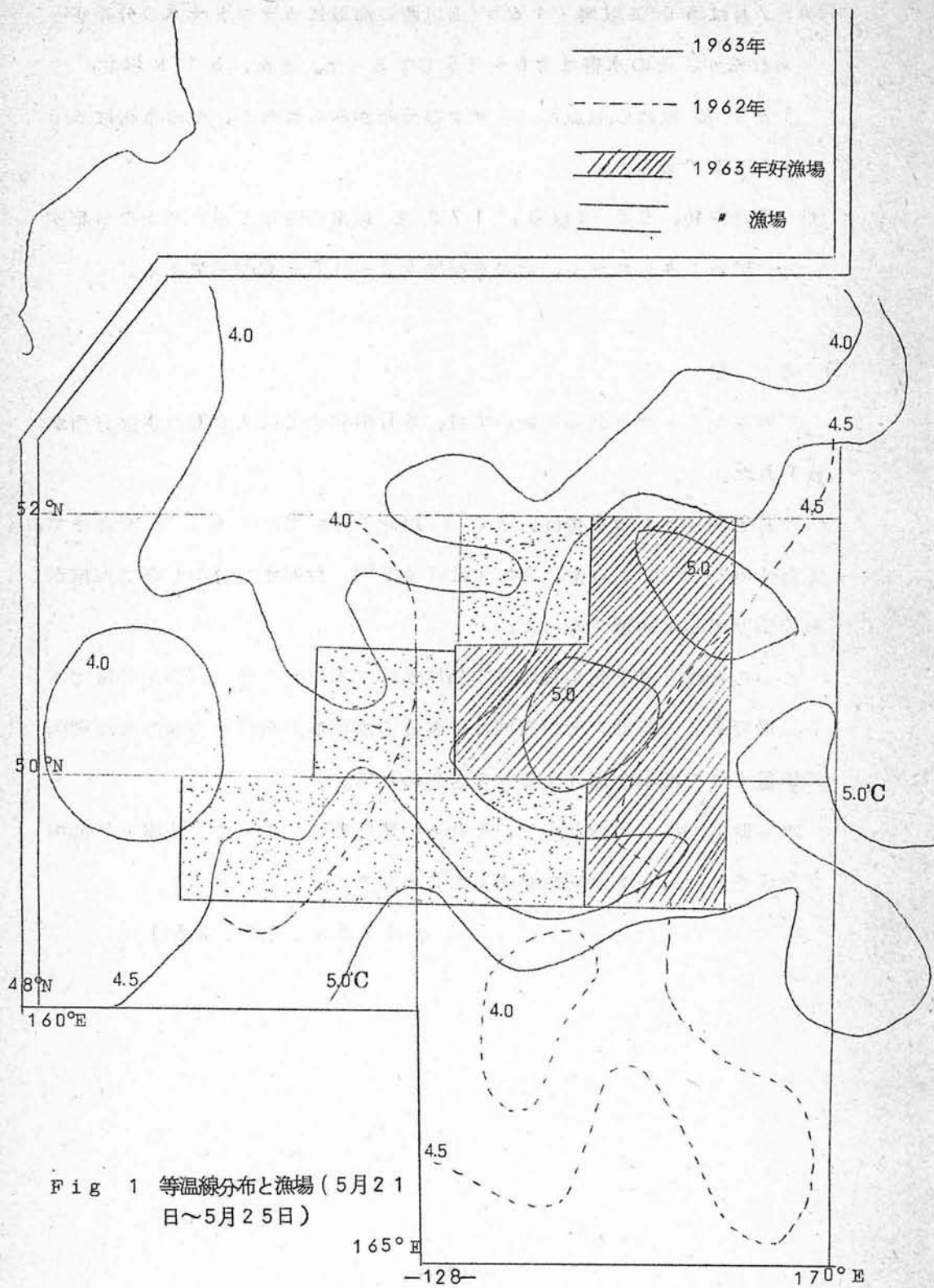


Fig 1 等温線分布と漁場 (5月21日~5月25日)

